

「テロリスト」か「独立の英雄」か



金子 淳

一般のパレスチナ人は違う。民間人は保護すべきだ」。パレスチナ自治区ガザ地区でイスラム

組織ハマスとイスラエルの戦闘が始まってから、欧米の首脳などからこんな発言が相次いだ。趣旨はこうだ。越境攻撃でイスラエル市民を殺害し、人質まで取ったハマスの残虐行為は決して許されるものではない。だが、イスラエルもハマスとは無関係のガザ市民を殺害すべきではない。

確かにそうだ。ガザ市民がみんなハマスを支持しているわけではない。言いたいことはよく分かる。だが、こうした論理は「アラブ人には響かないのだ」と最近取材したエジプトの大学教授が教えてくれた。

つまりくのは、「ハマスはテロリスト」という最初の部分だという。教授によると、多くのアラブ人は、パレスチナ問題の元凶はイスラエルの占領にあると考えている。中東のアラブ諸国は20世紀に次々と独立を果たしたが、パレスチナだけが独立できず

土地を追われた。パレスチナは「中東最後の占領地」であり、イスラエルという巨大な占領者と戦うハマスは、いわば「独立の英雄」だ。もちろん、アラブ人にもハマスのようなイスラム組織に批判的な人は少なくない。イスラム過激主義の台頭に対する警戒感があるからだ。しかし、イスラエルと戦っている以上、「批判することはあり得なくなる」という。

そういえば、アラブ人への取材で、ハマスに対する厳しい批判はあまり聞いたことがない。ガザ地区を支援するサウジアラビア人やエジプト人、ハマスとライバル関係にある政治組織を支持するパレスチナ難民も、ハマスをどう思うか尋ねると、話はすぐに「悪いのはイスラエルだ」という流れになった。話しているうちに興奮し、いかにイスラエルがひどいのか、数十分にわたり「演説」した人もいた。

正義と悪は立場によってそっくり入れ替わる。かつて取材したウクライナ侵攻や米国の対テロ戦争、印パ紛争でもそうだった。

果たしてハマスは「テロリスト」なのか「独立の志士」なのか。欧米と中東の間に広がるこの断絶を理解しないと、きつと本当の解決は近づいてこない。